平成20年3月 vol. 10

いわき市立総合磐城共立病院

# 地域医療連携室だより

## ～ 在宅医療のコーディネートについて ～

いわき市立総合磐城共立病院
診療局兼地域医療連携室長
新　谷　史　明

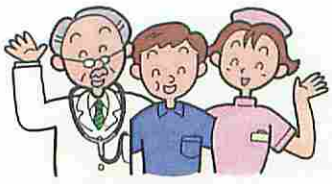
私の所属する共立病院外科では、毎年50人前後の入院患者さんが亡くなられます。悪性腫瘍の転移・再発が原因で亡くなる方はそのうち約８割、昨年は41人でした。その死亡時の平均在院日数は39.6日（０～293日）、外科全体の在院日数15～16日と比べると約2.5倍です。人生の最期の時を、40日間も、あまり過ごしやすいとはいえない環境で、残念ながらプライバシーに問題のあるかもしれない状況で過ごさざるを得ないというのはいかがなものでしょうか。

世論調査によると、がん終末期の療養場所について、早期には約60％が在宅を希望するものの、最終的には50％が緩和ケア病棟へ入院、33％が病院へ入院を希望し、在宅死を望むものはたった10％に過ぎないとのことです。また厚労省による意識調査でも、終末期には住み慣れた場所で最期を迎えたい、最期まで好きなように過ごしたい、という理由で在宅療養を希望する一方、自宅では家族の介護などの負担が大きい、自宅では緊急時に家族へ迷惑をかけるかもしれないと考える方も多くみられるようです。家庭の療養環境が一番の原因ですが、在宅死を支えるわれわれ医療者側のシステムの整備が行き届いていないことも大きな問題と考えます。

それではわれわれはどのようにして在宅緩和医療を展開していけばよいのでしょうか。まずは情報の整理が必要です。どこに行けばどんな医療、介護、ケアが受けられるのか、費用はどのくらいか、家族と一緒にいられるのか、緊急時の対応はどうなっているのか、情報を一元化しておく必要があります。次にそれをどのように現場の医師、コメディカル、患者本人、患者家族に知っていただくかです。さらには、どうしたら、誰に相談したら、どこに行ったら、そういった医療・介護サービスに到達できるか、明示し、システム化することが重要です。宮城県のある在宅緩和ケアチームでは、がん患者でも自宅および介護施設で90％前後は看取ることができると報告しています。これに対して、昨年当院外科で入院して亡くなったがん患者の方は41名でしたが、同期間中に在宅で亡くなったがん患者はたった4名、1割弱に過ぎません。在宅医療、ケアの重要性、必要性を理解し、システム化することにより、この大きな差が出てくるのでしょう。

これは緩和医療、終末期医療だけでなく、昨年度の医療法改正で盛り込まれた大腿骨頚部骨折の地域連携パスなどにも当てはめることができると思います。保険適応になってもなかなか実施に至らないのはそのメリットが医療側、患者側双方ともに十分に理解されていないのが原因ではないでしょうか。そういう情報を十分に理解し、広報できる、在宅医療コーディネーターという様な職種が必要かもしれません。そういった役割を当院地域医療連携室が担うことができれば、と思っています。

皆様には当連携室のご利用をお願いするばかりでなく、情報交換、スタッフの研修などにもますますのご協力、ご支援をお願いいたします。



【いわき市立総合磐城共立病院　地域医療連携室】
電　話　0246（26）2250（直通）　ＦＡＸ 0246（26）2119
ＵＲＬ　http://www.iwaki-kyoritsu.iwaki.fukushima.jp
E-mail　kyoritsu@iwaki-kyoritsu.iwaki.fukushima.jp

診療科紹介

# 眼　　科

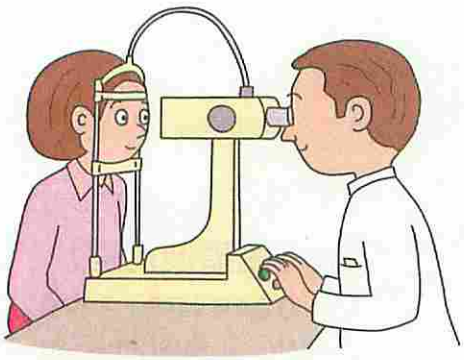
眼　科
濱　松　哲　央

当院の眼科は昭和36年３月に創設されました。東北大学医学部眼科学教室から堀内敏男先生が初代眼科医長として赴任され、以後平成元年3月までの長期間に渡り御活躍され、現在の磐城共立病院眼科の基礎をつくられました。以来同教室より塩野貴先生、菅野陳一郎先生、高橋玲子先生、阿部信一先生、安井朝輝先生、角田雅宏先生が科長を勤められました。いづれの歴代の先生方も現在第一線の眼科開業医として、地域医療に多大なる貢献をされております。

平成13年４月からは濱松が科長として赴任しており、もうすぐ７年となります。着任当初は常勤医師３人体制でしたが、平成18年10月より２人体制となってしまいました。昨年６月からは、中村政彦医師の後任として今留尚人医師が着任しております。現在の外来診療体制は、濱松、今留の常勤医師２名とともに、看護師３名(含非常勤)、視能訓練士１名、眼科診療補助者２名で外来診療を行っております。また、入院加療は主に眼科検査室(眼科検査器機が常設)のある北３病棟にて行っており、菅野悦子師長のもとに眼科緊急疾患の受け入れには万全の対応を取って頂いております。

当科は福島県南浜通りから北茨城までの広範な地域の眼科診療の中核的施設として稼働しております。一般の眼科診療所では治療困難な網膜剥離や増殖性糖尿病性網膜症などの、網膜硝子体手術を必要とする症例の紹介が多く、また救命救急センターやNICUもあることから、外傷や未熟児網膜症の症例も多いことも特徴として挙げられます。勿論、白内障手術や緑内障手術、外眼部手術などの一般的な眼科手術にも対応しております。幸いに、赴任当初より大きな問題も無く、忙しい日々を過ごしておりましたが、医師数が減ってからは忙しさにさらに拍車がかかった状態となっております。現在のところ、診療内容に変更はありませんが、迅速な手術等を必要とする紹介患者に柔軟に対応するため、最近は白内障手術などの予定件数を意識的に制限するようにしております。

現在、白内障手術の場合は予約後約３～４カ月待ちの状態となっております。地域社会における当科の立場が一般の眼科での対応が困難な症例の受け入れにあるため、地域の当科への要望と、医師の負担を配慮した結果ですが、今後どのようにすればよいか、検討中です。

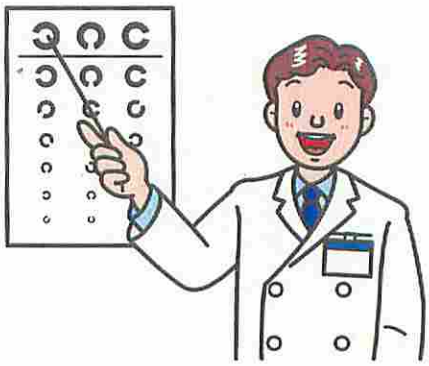


昨年度の手術件数191件（レーザー手術616件は除く）の中で、網膜硝子体手術は91件（硝子体手術70件、網膜復位術21件）となっており、全体の約48％となっています。重症例が多いため、一般の眼科手術施設と比較すると網膜硝子体手術の割合がたいへん多くなっているのが特徴です。

定期手術は火曜日と木曜日の午後となっております。網膜硝子体手術だけでなく、白内障手術や緑内障手術な

どにも対応しており、外傷などの緊急性を要する症例に対しては、臨時手術にて対応しております。また、月曜日と金曜日の午後は外来にてレーザー手術をしております。一般外来診療時間は月曜日から金曜日の午前中にて行っておりますが、常勤医師が３名から２名に減少してしまったこと、重症患者が多いため、精密検査や治療を含め、診療時間が長くかかることが多くなっているのが実情です。月・水・金曜日は11時30分まで、火・木曜日は10時までの受付となっております。午後は基本的には予約外来となっており、斜視や弱視などの小児患者を中心とした小児再来や、蛍光眼底造影検査や視野検査をはじめとした種々の予約検査を施行しております。水曜日の午後にはNICUを含めた未熟児眼底検査もしております。

院外活動としては、平成９年３月から“いわき眼科集談会”が、日本眼科学会専門医制度委員会より事業認定を受け、当科を事務局として年３回ほど開催されています。いわき市内外からの眼科医師が出席し、診療報告および症例検討の場として、いわきおよび近隣地区の眼科医療の拠点として貢献しております。眼科領域の医療技術および医療器機の進歩はめざましいものがあり、我々も最新の技術を獲得する努力を怠らずに、歴代の諸先生方が築き上げてきた共立病院の実績を更に発展させていきたいと思います。



〈眼科医局員〉

診療科紹介

# 泌　尿　器　科

泌尿器科
徳　山　　聡

磐城共立病院泌尿器科は、竹内睦男先生（現、松尾病院）が開設され、竹内先生の定年退職後は、鈴木謙一先生（現、さわ西クリニック）が引き継ぎ、鈴木先生の退職、開業に伴い、筆者が着任し、現在に至っています。開設当初は一名で診療を開始し、東北大学泌尿器科のサポート、医師派遣により二人体制、三人体制と増員されましたが、研修制度のあおりか、泌尿器科を選択する新人の減少もあり、現在は筆者と佐竹洋平医師との二人体制で診療に当たっています。外来日は、月、火、木、金(午前、予約制)、午後は検査(火、木、金)、手術(月、水)というスケジュールで動いていますが、いわき市内の泌尿器科医の減少、外来処置、検査が多いという泌尿器科の性質、高齢化による患者の増加、入院中の方々の診療、等の事情から仕事量が多く、気がつくと日没という毎日が続いています。昨年末から月二回(水)、東北大学泌尿器科から応援医師の派遣をしていただけるようになり、精神的にはすこし余裕ができたといえますが、日々の業務、肉体的負担は変わらないようです。安全で質の高い診療のためには、病院設備、診療設備の充実はもちろん、時間的、人的余裕が必須(経済的問題はあるでしょうが)であり、当科も外来診療体制、診療システムを整えていかなくてはならないと思っています。

泌尿器科の診療領域は、尿路悪性腫瘍(副腎、後腹膜腫瘍なども)、排尿障害、尿路結石症、尿路感染症、先天性疾患(尿路奇形など)、女性泌尿器科(腹圧性尿失禁、骨盤内臓器脱など)、性機能障害と多岐にわたり、治療も内科的治療から、内視鏡治療、腹腔鏡手術、開放手術と各種のアプローチがあり、日進月歩の状態です。腹腔鏡手術は低侵襲であること、認定医制度が進んできていること、若手の医師が勤務移動で当院に派遣されてくることから、大学と連携して体制を整え、積極的に取り入れて行きたいと考えています。現在、尿路結石の治療はマンパワーの問題、装置が当院にないことから、福島労災病院と連携してESWLを施行して頂いていますが、これも将来的な課題です。

人員の充足、診療機材の整備、外来診療室の整備等、課題は多く理想と現実のギャップは大きいのですが、市内の各病院および開業医の先生方、院内各科、東北大学泌尿器科との連携により、前向きに対応していく所存です。

〈泌尿器科医局員〉

# 新任医師紹介

耳鼻咽喉科

## 小澤 大樹 医師

ライフワークはベガルタ仙台の応援です。昨季は26試合出場で15勝5敗6分。07年までの通算応援成績は、192試合83勝63敗46分。まずは200試合出場と100勝達成を目標にしたいと思います。

呼吸器外科

## 塩 豊 医師

肺癌、縦隔腫瘍、気胸に対する胸腔鏡下手術、および肺癌に対する抗癌剤化学療法を中心に診療しております。宜しくお願いいたします。
資格：外科専門医、呼吸器外科専門医、消化器外科認定医

小児科

## 岩岡 亜理 医師

昨年10月より赴任しました。小児循環器を専門としています。
宜しくお願いします。

脳神経外科

## 横沢 路子 医師

平成19年10月より、脳神経外科で勤務している横沢路子と申します。
ここは平成16年4月から臨床研修医として2年間お世話になった病院であり、再び配属になったことをとてもうれしく思っています。
未熟な点も多く、脳神経外科医としてもまだ駆け出しですが、どうぞよろしくお願いします。

麻酔科

## 佐藤　翠 医師

秋田出身ですが縁あって福島医大に合格し、福島県での生活は9年目となりました。医局人事により11月からこちらに異動になり、周りの人たちに支えられつつ何とか頑張ってます。
これからもよろしくお願い致します！

糖尿病・内分泌科

## 渡辺　崇 医師

平成19年11月より、糖尿病・内分泌科でお世話になっております。
患者様にご満足頂けるような診療を目指しておりますので、これからも何卒宜しくお願い申し上げます。

耳鼻咽喉科

## 郭　冠宏 医師

昨年10月に仙台から来ました耳鼻咽喉科のもので、郭 冠 宏と申します。平成13年に東北大学を卒業してから、主に仙台市内の病院で勤務し、急性疾患や良性疾患について勉強してきました。耳鼻科医としてまだ未熟ですが、出身は台湾で母国語の中国語が役に立てれば幸いに思います。御指導、御鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

耳鼻咽喉科

## 西川　仁 医師

磐城共立病院の職員方々・患者様。平成19年7月より勤務させて頂いております耳鼻咽喉科の医師 西川 仁と申します。生まれ・育ちは関西・九州でありますが、東北大学で勉強させて頂いた経緯から卒業後も東北地方の病院で勤務し続けておりました。その間に指導して頂いた先輩医師の多くが過去に共立病院で勤務しておられましたことを知り、感無量であります。その歴史に恥じないような診療をしていく次第であります。またこの土地の天候の良さ、朝の自宅周辺通勤の環境の良さは、日々の疲れた心の癒しのもとになっております。家族で引っ越してきました。家族も含めお付き合い宜しくお願いいたします。

形成外科
**玉 田 崇 和** 医師

昨年7月から形成外科で勤務しております。
早いものであと4ヵ月で転勤となります。
お世話になりました。

# 院内イベント

## 接遇講演会

## 医療の信頼を支える『心くばりの話しことば』

～「伝えた」と「伝わった」は違う～

平成20年2月19日、院内講堂において接遇に関する講演会が開催されました。

講師は元ＮＨＫアナウンサーで、現在は㈶ＮＨＫ放送研修センター顧問の岡部　達昭氏。

90分にわたる講演では、言葉によるコミュニケーションにおいて信頼関係を築くために心がけるべきことをさまざまな実例とユーモアを交えながらお話しされました。

「意識が行動を作る
行動が習慣を作る
習慣が人格を作る
人格が運命を作る」
（エコーの法則）が紹介された。

# 当院からのお知らせ

## ～内科（腎臓膠原病科）の診療体制変更について～

当院内科（腎臓膠原病科）は、常勤医師２名で診療を担当しておりましたが、平成20年４月１日から医師１名の退職により、診療体制を変えざるをえなくなりました。

これまでの医療水準を維持していくことは困難であるため、医師が確保されるまでの間、２月18日より当面、外来診療及び入院診療を次のように制限させて頂くことになりました。

つきましては、事情を御理解いただき、患者様を御紹介くださる場合におきましては、当科の診療制限に御協力の程、宜しくお願い致します。

### Ⅰ　外来診療及び入院診療

◎　腎炎、慢性腎不全、膠原病、関節リウマチ、高血圧症の患者さんは、お近くの専門医療機関を紹介されますようお願いします。

◎　現在、これらの疾患で当科に受診中の患者さんにつきましても、極力近医への転院を御紹介することと致します。

◎　どうしても当院で加療が必要と判断される場合には、事前に当科担当医に連絡をとって頂き紹介されますようお願いします。

### Ⅱ　透　析

◎　透析につきましては、現在入院加療中の患者さんに限ることとなります。

◎　外来維持透析につきましても縮小することになり、現在受診中の患者さんにつきましても、極力近医への紹介を勧めることとします。

◎　脳血管障害合併例については、専門医がいないため、当院への転院紹介の受け入れはできませんので御了知願います。

**地域医療連携室業務時間**
**月～金　8：30～17：15**

〒973-8555 福島県いわき市内郷御厩町久世原16番地 いわき市立総合磐城共立病院